

# 会 報

No. 108.

2012.1.1 発行

生涯現役かなざわ会

URL (<http://orange.zero.jp/hnw.boat/>)

事務局《代表世話人》門口 泰宣

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西 5-34-26

Tel/Fax : 045-773-6074

Eメール : [ymyman@r8.dion.ne.jp](mailto:ymyman@r8.dion.ne.jp)

+++++

## 『辰年のあれこれ』

代表 門口 泰宣

2012年は辰年です。竜は「東の守り神」と言われているようであり、東日本地震災害からの復旧に何がしかのご利益があるかもしれません。秋にブータン国王夫妻が新婚旅行を兼ねて日本を訪れ爽やかな印象を残して帰られましたが、竜はブータンの象徴であり、国旗や紙幣に竜が描かれております。国王はスピーチで“みんなの心の中に竜という人格がいる。竜は経験を食べて成長し、年をとるにつれて大きく、強くなる”という含蓄のあるお話をされました。以下竜に関する様々な話題をインターネットから集めてみました。

竜は神獣・霊獣であり、『[史記](#)』における[劉邦](#)出生伝説以来、中国では[皇帝](#)の[シンボル](#)として扱われた。水中か地中に棲むとされることが多い。その啼き声によって雷雲や嵐を呼び、また[竜巻](#)となって天空に昇り自在に飛翔すると言われる。

「竜に九似あり」とされ、角は[鹿](#)、頭は[駱駝](#)、眼は[鬼](#)（幽霊）あるいは[兎](#)、身体は[蛇](#)、腹は[蜃](#)、背中の鱗は[鯉](#)、爪は[鷹](#)、掌は[虎](#)、耳は[牛](#)にそれぞれ似るといふ。また口辺に長髯をたくわえ、喉下には一尺四方の[逆鱗](#)があり、顎下に宝珠を持っていると言われる。秋になると淵の中に潜み、春には天に昇るとも言う。

[十二支](#)に各々動物が当てはめられた際、唯一採用された伝説上の生物である。[後漢](#)の[王充](#)『[論衡](#)』言毒篇に「辰為龍、巳為蛇。辰、巳之位在東南」とあるのが、確かめられる最も古い記述である。なぜ[辰](#)だけが想像上の動物になったのかは未だに議論の的であり、定説がない。ワニ学者の[青木良輔](#)は、竜の起源は、古代に[長江](#)や[漢水](#)に実在した[ワニ](#)の一種（[マチカネワニ](#)）であり、寒冷化により絶滅し

た後、伝説化したものだと主張している。これは現在残っている竜の図像の歴史的变化からも窺えるとのことである。

## 日本の竜

様々な文化とともに中国から伝来し、元々日本にあった蛇神信仰と融合した。中世以降の解釈では日本神話に登場する八岐大蛇も竜の一種とされることがある。古墳などに見られる四神の青竜が有名だが、他にも水の神として各地で民間信仰の対象となった。九頭竜伝承は特に有名である。灌漑技術が未熟だった時代には、旱魃が続くと、竜神に食べ物や生け贄を捧げたり、高僧が祈りを捧げるといった雨乞いが行われている。有名なものでは、神泉苑（二条城南）で弘法大師が祈りを捧げて善女竜王（清瀧権現）を呼び、雨を降らせたという逸話がある。浦島太郎が竜宮城で歓待をうけたお伽話は誰でも知っている。

日本国内には、京都府の相国寺、栃木県の日光東照宮の薬師堂、長野県の妙見寺など、3箇所の寺院で「鳴竜」などと呼ばれる仕掛けがある。これは堂宇の天井に大きな龍の絵が描かれており、この真下で拍子木を打ったり拍手をすると、定在波によりパァーンと響き、それが竜が鳴いているように聞こえるものである。かつて青森県にも竜泉寺にこの鳴竜があったが、焼失したため現存していない。

## 竜にちなんだ比喻・言葉

- 竜は帝王の象徴とされるため、帝王にまつわるものには「竜」がつくことが多い。「竜影」（帝王の姿）、「竜顔」（帝王の顔）、「袞竜（こんりょう）」（帝王の衣服。「袞竜の袖にすぎる」といえば帝王に助けを求めるという意味になる）、「竜袍（りゅうほう、ロンパオ）」（清朝の皇帝の着る黄色の緞子の着物）。
- 「竜」は偉大な霊獣とされるため、漢字文化圏では人名によく使用される。
- 「鯉の滝昇り」は、鯉が滝を上ると竜になる、「登竜門」という中国の故事伝承にちなむ。
- 中国では、恐竜など大型動物の化石は竜の骨（竜骨）と信じられ、長く漢方の材料として使用された。
- 竜の顎には一枚だけ逆さになった鱗があり、これに触ると必ず殺されるといふ。逆鱗に触れるの語源である。

- [風水](#)における[気](#)の流れは**竜脈**と称された。
- [日本列島](#)はその形状から竜と称されることがあり、例えば「[日本沈没](#)」（[小松左京](#)）では物語終盤の日本が沈没する節に**竜の死**というタイトルを付けている。同じく小松左京による自己パロディ作品「日本漂流」では、日本列島の下には本当に竜がいて、それをうっかり突いたために、日本が世界中を泳ぎ回る。*Archultragigantonamasaurus nipponicus* という名が与えられていた。
- 始めは盛んで終りはふるわないことを**竜頭蛇尾**という。
- 竜虎相打つとは、共に新監督を迎えた中日ドラゴンズと阪神タイガースの対決をいうのかな？
- [黄河](#)は、古来その形状から竜に喩えられた。
- 中国の[古琴](#)や[和楽器](#)の**箏**は、竜に見立てられており、「竜角」、「竜尾」、「竜眼」など多くの部分が竜の体の部分にちなんだ名称で呼ばれる。“ゴホンときたら竜角散”はお馴染みの医薬品である。
- [将棋](#)で竜とは**飛車**が成った**駒**である**竜王**の略称。ちなみに[角行](#)の成ったものは**竜馬**（りゅうま）だが、こちらの略称は馬（うま）。
- [麻雀](#)では**三元牌**を竜に喩えることがある（英語で Dragon tiles）。また**ドラ**は三元牌を「ドラゴン」と呼んだことに由来したもの。

=====